

## あなたはどっちの味方？

### 『NTT VS 郵政省』

人気アイドルグループSMAPが出てくるNTTのテレビコマーシャルの最後に「遠距離通話料金、2000年までに3分100円を目指して」といったコピーが流れている。すぐに消えてしまうが、意外と憶えているもので、このコピーがなんだか気になっていた。個人的には市内通話を安くしてもらえればありがたいのだが、なんでめったに使うことのない遠距離電話にこだわっているのだろうか。その疑問は本書で氷解した。公共企業体の1つであ

った電電公社が民営化してNTTとなった経緯や、しばしば起こる分割論争、通信の自由化以降のNCCとの問題、話題のOCN構想などを、監督官庁である郵政省との対立を中心に描いている。そして、同じように公共企業体から民間企業に変貌した英国のプリティッシュテレコム社、米国における通信の独占的位置にしながら企業の分割を行ったAT&Tのケースを取り上げ、NTTはどうあるべきかを問う。先の「3分100円」は95年度に立てられたNTTの計画のなかで、市外電話料金の引き下

げ目標としてあげられていた。本書ではこれを分割阻止戦術とみている。分割派との駆け引きだ。インターネットの行く末は、NTT抜きには語れない。専用線が高いと嘆いているならば読んでおきたい。



# 気になる通信インフラの動向

菊地宏明 Hiroaki Kikutchi

## ついに出了「プロバイダーの選び方」

### 『快適インターネットのためのプロバイダーの見極め方』

インターネットサービスプロバイダーの優劣は一概にはつけがたい。しかし、自分に合ったプロバイダーを見つけるには、各プロバイダーの情報を収集することが大切である。賢明なる読者は、本誌のデータページなどを参考にしているだろう。本書もプロバイダー選びの情報提供に一役買ってくれる。52のプロバイダーにアンケートを送り、25プロバイダーの百数項目にものぼる情報を集め、それが何を意味するかを解説している。このなかにはプロバイダー選びに使えるようなデータもあるが、プロバイダー側自身が提供する情報がほとんどで、実際のユーザーの快適度が推し量れる情報は少ない。そのため、本書で基礎的な情報を収集し

た後アクセスポイント情報やダイヤルアップ回線の話中度などを本誌で補充することが必要になるだろう。資料編ではわいせつ画像

掲載の  
山崎潤一郎著  
KKベストセラーズ発行  
247頁  
1300円  
ISBN : 4-584-18240-X



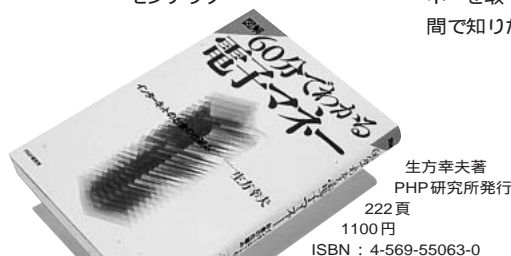
ホームページ摘発事件を取り上げ、プロバイダーへの規制について書いているが、警察が電子メールサーバーを押収したことを著者は釈然としないとしている。ならば、この視点で、プロバイダーは利用者のプライバシーをどこまで守れるのか、プライバシー面で安心できるプロバイダーとはどこかというように内容が展開すれば、さらに楽しめたはずだ。残念。

## 通勤時間に理解する電子マネー

### 『図解 60分でわかる電子マネー』

『3月18日、Microsoft社は財務アプリ「Microsoft Money」を用いたホームバンキング市場戦略のシステム Open Financial Connectivity (OFC) を発表した。同アプリを使うと、インターネットや公衆電話回線経由で銀行に直接接続してホームバンキングが可能となる。こんな記事が、電子メール新聞(インターネットウオッチ)で飛び込んでくる昨今、ネットワークと電子マネー、電子決済などをめぐる状況は刻々と変化している。これを経済評論家側から解説しているのが本書である。モンデック

ス、Ecash、ファーストヴァーチャル、セキュリティファーストネットワークバンクなどのICカードやネットワークを使った電子マネーのしくみを簡単に解説する。暗号化などの技術的な話はなく、コンピュータやネットワークに詳しくない人も概要をつかみやすい。しかし、コンピュータ用語も解説なく出てくるため、まったくのコンピュータ初心者には受け入れられないかもしれない。本書では、インターネットにこだわらず、専用ネットワークを使った株式取引や、ネットワークで実現する仮想的な証券取引所の紹介、そして電子商取引(EC)としてのEDIとCALSを解説する。電子マネーを取りまく概況を通勤時間で知りたい方に最適。

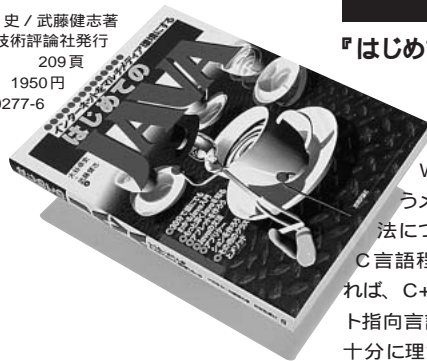


## JAVAのプログラミング入門

### 『はじめてのJAVA』

初心者向けのJavaの入門書。WWWでJavaを使うメリットやJavaの文法について解説している。C言語程度の予備知識があれば、C++などのオブジェクト指向言語の知識がなくても十分に理解できるようになっている。前半は、Java入門として特徴やメリットを解説し、さらにWWWブラウザと連携したときのしくみや効果を説明する。Netscape Navigator 2.XでJavaのアプレットを使ったページを見ながらJavaができることを説明するため、WWWブラウザがないと、Javaに何ができるのかがつかみにくい。また、重要ではあ

るが本文で解説したくないインターネット、ハイパーテキスト、公開鍵暗号などの項目をコラムにしているが、特に、第1章では文章量が多いためコラムで本文が細切れになってしまっている。レイアウトの工夫がほしいところだ。後半はJDK (Java Developer's Kit) を使ってアプレットを作れるように、文法を解説している。サンプルのソースコードを解説しながら文法を説明する形をとっており、順に読んでいくには読みやすいが、リファレンスマニュアル的に文法を検索するには向いていない構成だ。なお、開発にはJDKを使い、音声データはWAV形式からの変換が説明されているように、ウィンドウズユーザー向けである。



大谷 史 / 武藤健志著  
技術評論社発行  
209頁  
1950円  
ISBN : 4-7741-0277-6

## 米国放送界の風雲児

### 『テッド・ターナー CNNを創った男』

コンピュータ業界のサクセスストーリーの主人公がビル・ゲイツなら、放送メディア界での主人公はテッド・ターナーに違いない。ナンバーワンを目指して挑んできたテッドの半生は、アメリカンドリームを体現したものと言っていいだろう。彼は、4度のヨットマン・オブ・ザ・イヤー受賞者で世界的なヨットレース「アメリカズ・カップ」の優勝スキッパー(艇長)、大リーグ「アトランタ・ブレーブス」を買収して優勝させ、プロバスケのアトランタ・ホークスのオーナー、そして女優ジェーン・フォンダを妻にもち、24時間ニュースを放映して80年代に大躍進を遂げたケーブルテレビ局CNNを生み出した男という肩書きをもつ。本書では、メディアビジネス戦略を中心にスポーツチーム、ヨットクルーの話、さ

ではラブロマンスと彼の多面的な行動が余すところなく描かれており、400ページを超えるボリュームを感じさせない。昨年12月14日、米3大ネットワークのNBCとマイクロソフト社が提携し、24時間放映のニュース専門局「MSNBC」を設立することを発表した。情報処理産業と放送メディアのジョイントが進むなか、CNNの動向は目が離せない。今後の動向を占ううえでも、CNNを生み出したテッド・ターナーを知っていて損はない。



ボータ・ビブ著  
久坂 翠訳  
アスキー発行  
413頁  
2800円  
ISBN : 4-7561-1432-6

## 本の行く末を温かく語る

### 『本はどのように 消えてゆくのか』

メディアとしての本をこよなく愛する思いが感じられるエッセイ集。CD-ROMやインターネットなどいろいろな電子の書物が現れるなか、「紙に残されるインクのシミとしての活字本は今後どうなっていくのだろうか」という一般的な疑問に対し、出版社で本を作ってきた筆者が13

編のエッセイをとおして答えている。いずれも、自らのDTP体験やエキスパンドブック、WWWのホームページ作りをとおして、電子本の世界を体感しているからこそ書けるものであるが、技術論だけに陥ることなく、えも言われぬ活字本への愛情が伝わってくる。私も、辞書の類はいまや電子本であることは当たり前で、ことあるごとに山積みされたCD-ROMの中から広辞苑を探すが、それが小説になる

と、ディスプレイでの読破にはいささか辟易する。どうせなら岩波文庫の版組で読みたいと感じたことがある。そんな思いを感じる活字フェチなら、この本を楽しめるはずだ。ポイジャー社のエキスパンドブックに比べ、HTMLやTeX、Acrobatなどはあまり評価されていない。ネットワークよりエキスパンドブックに期待されている点などに不満は残るものの、きわめて素直にデジタル出版をとらえている。

津野海太郎著  
晶文社発行  
218頁  
1900円  
ISBN : 4-7949-6244-4





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)